

ぶらり 諏訪塾 ⑨ 山と里に頼豊ゆかりの観音様

小泉寺

小泉寺は1010年、和泉式部開基とされる真言宗のお寺で、現在は諏訪市中洲中金子にあります。元は茅野市の小泉山の山麓にありました。小泉山は多くの修験者の集まる山で、真言宗の修行の場であったとされています。本尊の馬頭観音は煩惱や災厄を強靱な憤怒の表情を持ってかみ砕く強く頼もしい仏様です。

永禄年間(1558~1569年)の頃、諏訪越中守頼豊が中金子、上金子辺りを領有していたと伝えられています。頼豊は諏訪惣領家(頼重)の滅亡後、その手腕を買われ、諏訪五十騎の筆頭として武田家に従属。栗沢城に在城して多くの武勇を残しています。天正10(1582)年織田軍の侵攻により、栗沢城からほど近い小泉山麓の観音平にあった小泉寺も失われてしまいます。武田勝頼も夫目目で最後を迎える事となります。

天正11年、本尊の馬頭観音は難を逃れ、諏訪の湯の脇付近に1年余り安置されましたが、その後栗沢城跡に建立されたお堂「栗沢観音」に再び帰る事となります。一方でお寺は、天正12年諏訪頼忠が新たに金子城を築城した際に、城の北東辺りにあった頼豊の領地(当時慈恩寺があった場所)に頼忠の祈願所として、現在の地に小泉山小泉寺が再建されました。その後金子城は姿を消し、諏訪湖畔に浮き城「高嶋城」が造られる事となります。

また、上金子には金葉院という頼豊ゆかりの古寺があります。檀家を持たない寺となってしまった為、現在は「仏法紹隆寺」の末寺となっていて、その境内には頼豊の墓と伝わる石塔が残されており、地域の方々に大切に守られて居ます。

小泉寺の本尊・馬頭観音は、境外本尊として栗沢観音に残されて

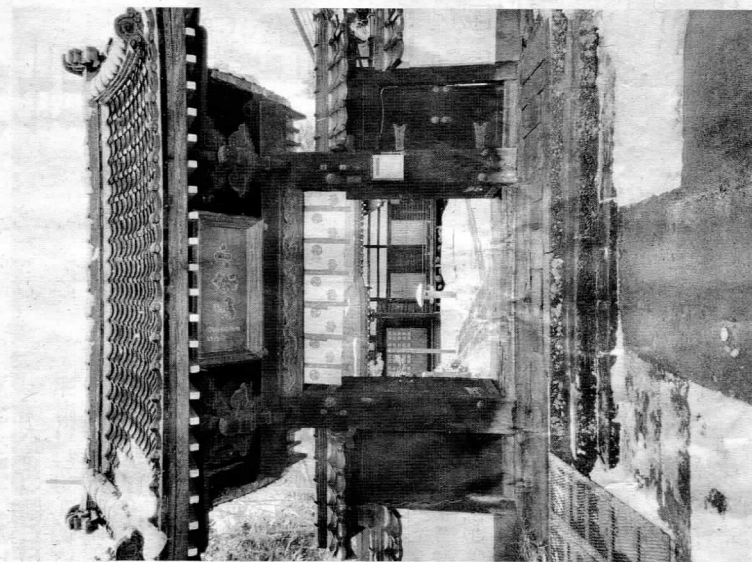


おり、その写し観音が小泉寺の本尊とされています。神も仏も故郷が恋しいのは同じ諏訪の衆は思ふのかもしれませんが。

＝随時掲載

詳しい場所などの問い合わせは
諏訪塾事務局(電話070・833
23・2107)へ。

- ぶらり 諏訪塾の世よせ
- ・諏訪市観光案内所
(JR上諏訪駅内)
 - ・れすとらん割烹いすみ屋
(諏訪市諏訪)
 - ・書店「三事堂」
(諏訪市末広)
 - ・すわ大音情報センター
(諏訪市博物館内)
 - ・諏訪書店(通販のみ)
07・09097)
 - ・柏屋たけのやキッチン
(諏訪市中洲神宮寺)
に販売中です。



かつては茅野市の小泉山の麓にあり、
現在は諏訪市中洲中金子に建つ小泉寺

今回の筆者



矢崎裕子さん

大音調査会、狼煙文化調査
会会員